

部門	室名	室の使い方等	特記事項	参考面積 (㎡)	天井高 (m) 以上	建築					電気				機械				備考
						床下地	床仕上	天井仕上	壁仕上	流台	照度 (LX)以上	電話	TV	LAN	空調	給水	給湯	洗面台	
	共通事項		<p>【一般共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広がりや明るさを感じさせる空間とし、圧迫感のない、空間・色彩・照明計画とすること。 ・採光窓については、自然光が公式競技や興行等利用時の妨げとならないよう、遮光装置（電動）を設けること。 ・遮光装置は、湿気に強い製品とすること。 ・遮音、吸音を考慮すること。 ・内外問わず、窓には全てカーテン、ブラインド又はロールスクリーンを設けること。 ・ドライゾーンとウェットゾーンを明確に区分したゾーニングとすること。 ・水温調整については「プール公認規則」に従い、各競技に適した温度設定が可能とすること。 ・室温についてはプール全体の温度分布に留意し、観客席と競技床面それぞれに快適な温度分布を維持する空調システムとすること。 ・高機能循環ろ過装置（オゾン浄化装置、紫外線殺菌装置、中空糸膜装置等の高度処理装置を併設したもの）を設置すること。 ・可動床等は動作状況を確認しながら操作できるようにすること。 ・大型表示装置1面を50mプール用に設置すること。スクリーンサイズは、最低横32文字、縦12行を表示するものとし、文字高は360mm以上とすること。選手、観客から見やすい位置に設置すること。 ・大型表示装置はフルカラーLED（画素ピッチ:16mm以下）とし、リザルト表示システム（時計・計測システム）と連動すること。 ・大型表示装置はプールからの湿気や塩素を考慮した製品とし、表示面はIP65（防水規格）をクリアした防水仕様とすること。 ・音響対策に十分に配慮し、残響が少なく明瞭度の高い音響計画とすること。 ・50mプールと25mプールとは間仕切りを行い、各々が個別利用できるように音環境に配慮すること。 ・50mプールと25mプールとの間仕切りは、開放性を考慮しガラス面を用いること。 ・床荷重については必要な数値を設定すること。 <p>【大規模な公式大会を想定した対応事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国スポ・障スポ等の大規模な公式大会時の選手入場動線を考慮すること。 ・施設要領に定める競技用具のうち、自動審判計時装置等の設備備品の配線等の工事を伴うものは、配線ルート等を埋設で計画すること。 ・計時計測設備及び大型映像装置と連動した館内共聴設備を設置すること。 ・国旗等を掲揚するため、速度可変式昇降装置付きフラッグバトンを設置すること。 																
屋内プール	50mプール	<ul style="list-style-type: none"> ・レーン数は10レーンとし「公認規則」による公称50m国内基準競泳プール、公認8レーン以上とすること。 ・50mプールにおいて「公認規則」による公称25m国内基準競泳プール、公認8レーン以上の公認を取得すること。 ・「プール公認規則」による国内基準水球プールの公認を取得すること。 ・大会や練習等で使用しない時には県民利用を想定すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長さ : 50.02m ・幅 : 25.02m程度 ・最大水深: 2.0m ・レーン数: 10レーン（公認8レーン以上） ・レーン幅: 2.50m <ul style="list-style-type: none"> ・可動床等をプール全面に設置すること。形状は一例として「別紙3可動床の計画資料」を参照すること。（水深の無段階調整が可能なものとする） ・各種競技の他、想定される一般利用の形態に合わせて水深調整があらかじめ設定されたプリセットパターンを用意し、ボタン操作により利用に合わせた変更操作が容易なものとする。 ・身体障がい者や高齢者等が、利用しやすい計画とすること。 ・身体障がい者や高齢者等の入水に配慮した移動式の階段等の設備を備えること。 ・照明は利用形態に合せたパターン点灯が可能なものとする。 ・プールサイドに視認性の高い水深表示装置を設置すること。 ・露出する場合の天井の梁等の形状、照明器具等の配列等をレーン方向に平行とする等、選手の心理的側面にも十分に配慮した計画とすること。 ・選手や観客に対するグレア等の支障が生じないように、遮光ブラインド等を設置すること。 	2.785	提案	C	提案	提案	提案		600	○	○	○	○	○	○	水面以上1m テレビ映像撮影時 (2500) ※仮設可能	遮光、循環ろ過装置、可動床等、大型表示装置

部門	室名	室の使い方等	特記事項	参考面積 (㎡)	天井高 (m) 以上	建築					電気				機械				備考	
						床下地	床仕上	天井仕上	壁仕上	流台	照度 (LX)以上	電話	TV	LAN	空調	給水	給湯	洗面台		
屋内プール	25mプール	・県民の一般利用を主とし、また競泳の国内大会時には50mプールの練習施設としても使用する。	<ul style="list-style-type: none"> 長さ : 25.00m 幅 : 16.00m以上 最大水深 : 1.35m以上 レーン数 : 8 レーン幅 : 2.00m以上 <ul style="list-style-type: none"> 身体障がい者や高齢者等が、利用しやすい計画とすること。 身体障がい者や高齢者等の入水に配慮したスロープ等の設備を設置すること。 照明は、利用形態に合せたパターン点灯が可能なものとする。 プールサイドに視認性の高い水深表示装置を設置すること。 25mプール全体を見渡せるギャラリを設け、いす、ベンチ等を適宜設けること。 競技の練習に対するグレア等の支障が生じないように遮光ブラインド等を設置すること。 	1,085	提案	C	提案	提案	提案		600	○	○	○	○	○	○	水面以上1m	遮光、循環ろ過装置	
	観客席	・大会時の観客席として使用する。	<ul style="list-style-type: none"> 固定席と仮設席の合計で2,500席以上とすること。 固定席は1,500席以上とし、50mプールの長辺方向と平行に配置すること。 座席1席あたりの幅は450mm以上、奥行きは450mm以上とすること。 客席前後の間隔は900mm程度とすること。 2列前の観客の頭越しにプールの端部が視認できる配置とすること。 観客席総数の0.5%以上を車いす対応とすること。 車いす使用者用客席は、2か所以上の異なる位置に分散して設け、観覧及び利用がしやすい位置とすること。 車いす使用者用客席は、少なくとも同時に2以上の車いすが利用できること。 車いす使用者用客席は、固定席位置に確保すること。 車いす使用者用客席は、床面又は手すり等に、車いす使用者用客席であることを表示すること。 車いす使用者用客席、一台につき間口90cm以上、奥行き120cm以上とすること。 座席にはチケット表記のための番号、記号を取り付けること。 	1,710	提案	C	提案	提案	提案		500	○	○	○	○					遮光
	プールサイド	・大会役員席や競技指導を行う場所としても使用する。	<ul style="list-style-type: none"> 50mプールの周囲には、大会運営に支障がない十分な寸法(8m以上)を確保すること。 25mプールの周囲は大会時に選手がウォーミングアップを行うこともできるよう、十分な寸法を確保すること。 仕上げ等、利用者の安全性に配慮した計画とすること。 プール廻りの床下配管が点検できるように配慮すること。 	50m、25m各プールを含む	提案	提案	提案	提案	提案		600	○	○	○	○	○	○			
プール関連諸室	放送・記録室	<ul style="list-style-type: none"> 大会時に大型表示装置を操作する室として機能すること。 協議判定及びタイムを記録する室として機能すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 十分な機器スペース及び操作スペースを確保すること。 室内にて大型表示装置の画面及びスタート位置及びゴールサイドが容易に確認できる配置とすること。 プールサイドに直結する出入口を設けること。 プールサイドに面した位置とし、プールサイド側をガラス張り等により目視が容易に行えること。 	85	2.6	OA	TC	DR	EP		500	○	○	○	○				遮光	
	審判室	・審判専用の更衣室、控室として使用する。	<ul style="list-style-type: none"> プールに近接し、一般観客及び報道関係者から隔離されている場所に計画すること。 選手用更衣室と動線上接触しないこと。 ロッカー、椅子、テーブル、ホワイトボードを設置すること。 シャワールーム、洗面台、トイレ等を整備すること。 	40	2.6	C	VS	DR	EP-G		500	○	○	○	○	○	○	○		
	救護室	・本施設内でのけが人、急病人等の応急処置を行う室として機能すること。	<ul style="list-style-type: none"> プールとの円滑な動線に配慮すること。 事務室や監視員室との位置関係や、救急車の外部寄り付きスペース、ストレッチャーの動線(扉寸法、廊下幅員等)を考慮した計画とすること。 室内に流し台を設けること。 室内に液晶テレビモニターを設けること。 	20	2.6	C	VS	DR	EP-G	○	500	○	○	○	○	○	○			
	監視室	・プールの安全管理、監視、事故防止のための監視指導員のための室として使用する。	<ul style="list-style-type: none"> 50m、25mプールに各1か所ずつ、プールサイドに面した位置に設け、ガラス張り等により目視が容易に行えること。 死角なくプール全体を見渡すことができること。また利用者にとっても分かりやすい位置に設けること。 可動床等の制御装置(50mプール用)を設置すること。 	50 (25×2か所)	2.6	提案	提案	DR	EP-G		500	○	○	○	○					

部門	室名	室の使い方等	特記事項	参考面積 (m ²)	天井高 (m) 以上	建築					電気				機械				備考
						床下地	床仕上	天井仕上	壁仕上	流台	照度 (LX) 以上	電話	TV	LAN	空調	給水	給湯	洗面台	
プール関連諸室	ドーピング検査室	・大会時等のドーピング検査のための室として使用する。	・観客や報道関係者、来賓等の部外者が近付くことができない場所に設置すること。 ・検査対象選手のプライバシーに配慮した室配置、動線計画であること。 ・室内にトイレを配置するか又はトイレを直近に配置すること。 ・その他の室とドーピング検査室を兼ねることも可とする。	20	2.6	提案	提案	DR	EP		500	○	○	○	○	(○)	(○)		
	報道関係者控室	・大会時には記者が控え、作業できる室として機能すること。 ・通常は会議室等として使用する。	・大会進行を把握できる映像モニターや弱電設備、電話回線を設置すること。 ・プールサイドに面した位置とし、プールサイド側をガラス張り等にするにより目視が容易に行えること。	20	2.6	提案	提案	DR	EP		500	○	○	○	○				
	役員室	・大会時には競技役員、大会役員が控え、観覧する室として使用する。 ・通常は会議室等として利用する。	・選手動線が役員室前を通らない計画とすること。 ・競技役員更衣ブースを適宜設けること。 ・プールサイドに面した位置とし、プールサイド側をガラス張り等にするにより目視が容易に行えること。 ・放送、記録室と近接した位置とすること。	85	2.6	OA	TC	DR	EP		500	○	○	○	○				
	選手控室	・競技前の招集室として使用する。 ・待機する選手数を必要数想定すること。	・レーン数分の選手が一列に整列できる幅と、4~5列分の奥行を確保すること。 ・選手控室の前室としての選手ラウンジを隣接して設けること。 ・更衣室及びプールとの動線に配慮した計画とすること。 ・通常は会議室等として使用する提案も可とする。	100	2.6	C	提案	提案	提案		500	○	○	○	○	提案	提案	提案	
	器具庫	・プール関連機器、備品類の収納場所として使用する。	・プールとの動線に配慮すること。 ・50mプール用及び25mプール用共に、プール関連機器、備品等を余裕を持って収納できるスペースを確保すること。 ・外部からの大型備品搬出入にも対応できるように配慮すること。 ・冬季等においては壁面が結露し、床面が濡れないように配慮すること。 ・薬品等を保管する倉庫は、利用者がみだりに立ち入り出来ない構造とすること。 ・出入口に十分な幅を確保すること。 ・保管物品の状態を保つために湿気対策を講じるとともに、出隅部分等はクッション材で防護すること。 ・室を一室とするか、分割とするかの配置計画についてはPFI事業者の提案による。	285	3.5	C	VS		EP-G		200								
更衣関連諸室	更衣室	・プール利用者のための更衣室として機能すること。 ・大会時には選手用の更衣室としても機能すること。 ・シャワー、トイレを整備する。	・50mプール用及び25mプール用それぞれに設け、男女別として更衣室を設けること。 ・男女各100人以上のロッカーを、50mプール及び25mプール用それぞれに設けること。 ・更衣室からプール及び各エリアへの動線に配慮すること。 ・シャワールーム、洗面所、トイレ等を整備すること。 ・ウェットゾーン側に前室を設け、ドライゾーンと明確に区分すること。 ・ドライゾーン部分の床面をドライに保つことができる機能を備えること。	585	2.6	C	提案	提案	EP-G		200				○	○	○	○	
	多目的更衣室	・誰もが利用しやすい更衣室として機能すること。	・誰もが使いやすい更衣室を独立して2室以上設けること。 ・多目的トイレを各室に1箇所設けること。 ・プールへの動線には段差が無いようにすること。 ・車いす使用者が利用できるシャワーブース、更衣ブースを各室に1箇所以上設けること。 ・ロッカー、シャワーブース、手すり、ベンチ等を適所に設置すること。 ・ドライゾーン部分の床面をドライに保つことができる機能を備えること。	80	2.6	C	提案	提案	EP-G		200				○	○	○	○	
	トレーニング室	・体力トレーニングを実施する場所として整備する。 ・屋内クライミングウォール整備する。	・体操や各種機器により運動負荷を与えることによる体力トレーニングを実施する場所として整備すること。 ・機器の設置に当たっては、各々の間隔を十分に確保すること。 ・ストレッチスペースを適宜設けること。 ・設置機器の重量に応じた適切な床荷重を設定すること。また、設置機器及び利用者の衝撃を吸収する等の配慮を行うこと。 ・上足での使用を原則とし下足エリアとの明確な区分を行うこと。 ・クライミングウォールは幅6m、平均前傾角20°程度とすること。なお高さはトレーニング室の天井高にあわせて設置すること。 ・クライミングホールドは、1㎡あたり10個程度とし、各種類バランス良く配置すること。 ・クライミングウォール下部には幅8m×奥行5m以上、厚み30cmのマットを敷設すること。	250	3.5	提案	提案	DR	提案		300			○	○				
	多目的スタジオ	・多様なスポーツニーズに対応できる場所として整備する。	・エアロビクスやダンス、ヨガ等、多様なニーズに対応できる仕様とすること。 ・壁面鏡やバレエバー等を設置すること。 ・大会時には選手のウォーミングアップスペースや控え室としても利用できるように配慮すること。 ・スタジオ用倉庫(棚付)を設けること。 ・音響設備を整え、防音性に配慮すること。 ・上足での使用を原則とし下足エリアとの明確な区分を行うこと。 ・利用者の衝撃を吸収する等の配慮を行うこと。	100	3.0	提案	提案	DR	提案		500	○	○	○	○				

部門	室名	室の使い方等	特記事項	参考面積 (㎡)	天井高 (m) 以上	建築					電気				機械				備考
						床下地	床仕上	天井仕上	壁仕上	流台	照度 (LX)以上	電話	TV	LAN	空調	給水	給湯	洗面台	
管理 関連 諸室	事務室	・本施設の管理運営に必要な事務を行う。 ・受付、案内機能を併設する。	・全館放送可能な設備を設けること。 ・その他の仕様については維持管理、運営に基づいた事業者提案による。 ・受付、案内はメインエントランスに面して計画すること ・受付カウンターを設置すること。	70	2.6	OA	TC	DR	EP	○	500	○	○	○	○	○	○		
	応接室	・通常は一般の応接室としての利用を計画すること。 ・大会時は貴賓室としての使用を計画すること。	・プール貴賓席との動線に配慮すること。	30	2.6	C	提案	提案	提案		500	○	○	○	○				
	会議室	・水泳に関連する研修、講習会、会議等に使用する。 ・大会時は大会運営本部室、運営スタッフ控室、警備員及び警備スタッフ控室としても使用する。	・エントランスホール、管理諸室、プールにアクセスしやすい動線を考慮すること。 ・移動間仕切り壁により分割利用可能とすること。 ・スクリーン（電動収納式）を設置すること。 ・事業者提案で、運営業務と絡めたその他の用途として会議室の使用を想定する際には、その用途に適した機能を適宜整備すること。 ・大規模な大会時には、競技役員等100名程度収容可能とすること。 ・大会によって柔軟な利用ができるように、移動間仕切等によるフレキシブルな空間とすること。なお、分割利用時の空調及び照明の配置や個別スイッチ等についても配慮すること。	180	2.6	提案	提案	DR	EP		500	○	○	○	○				
	中央監視室	・設備機器の運転監視、防災監視、機械警備の主装置の制御を行う室として使用する。	・各種設備機器の運転監視を行えるようにすること。 ・本施設内の自動火災報知設備の受信機を設置すること。 ・機械警備設備の主制御装置を設置すること。	40	2.6	OA	TC	DR	EP	○	500	○	○	○	○	○	○		
	警備員室	・保守管理・警備業務従事者が使用する。	・本施設への入館・退館時の通用口に近接して設けること。 ・搬出入口への動線に配慮すること。 ・室内に職員用のトイレを設けること。 ・本施設内外に設置する防犯カメラの映像を観ることができるようにすること。	20	2.6	提案	提案	DR	EP	○	500	○	○	○	○	○	○		
	清掃員控室	・清掃スタッフが使用する。	・室内に職員用トイレ、シャワーを設けること。	20	2.6	C	VS	DR	EP		500				○				
	倉庫	・備品等の倉庫として使用する。	・備品等を余裕を持って収納できるスペースを確保すること。 ・適宜利用しやすい位置に分割配置してもよい。 ・保管物品の状態を保つために湿気対策を講じるとともに、出隅部分等はクッション材で防護すること。 ・機材搬入路との関係や、機器寸法と出入口寸法の関係に配慮すること。 ・保管物品を適切に管理できるよう、収納ラック等を適宜設けること。	200	3.5	C	VS	GB-D	EP		200								
共用 エリア	エントランス ホール、ホワイ エ	・通常時の一般利用者のための主とした1階のエントランス空間として使用する。 ・大会時の観客のための主とした2階のエントランス空間（ホワイエ）として使用する。	・大規模大会開催時に、入場可能数に応じて、一時的に観客が集中した際にも安全な状態が維持できる広さを確保すること。 ・1階エントランスホール及び2階ホワイエから観客席エリアへ通ずる経路は、入場可能数に応じた幅員を確保し、観客の通行時や一時的な滞留時にも支障がない、十分な広さを確保すること。 ・開放的な空間とし、ロビーを隣接して設ける等、適宜ベンチ等を設置し、休憩、談話スペースとしての機能も有すること。 ・大規模大会時の受付や総合案内、飲食物を含む物販対応等に配慮した、ゆとりを持った面積を確保すること。 ・本施設の案内や、水泳に関する情報を掲示するスペースを設けること。	提案	提案	提案	提案	提案	提案		300	○	○	○	○				

部門	室名	室の使い方等	特記事項	参考面積 (㎡)	天井高 (m) 以上	建築					電気				機械				備考	
						床下地	床仕上	天井仕上	壁仕上	流台	照度 (LX) 以上	電話	TV	LAN	空調	給水	給湯	洗面台		
共用エリア	トイレ	・施設来場者が利用するトイレとして計画すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者の動線に配慮すること。 ・利用者数、観客数等を考慮した便器数・配置とすること。 ・男女トイレ内には各1か所ずつベビーベッドを設けること。 ・子ども用便座も適宜設置する等、子どもの利用に配慮すること。 ・その他、高齢者、子ども連れ及び障がい者に配慮した設備を設けること。 ・手洗いは、自動水栓とすること。 ・小便器は、個別自動洗浄小便器、大便器は洋式便器とすること。 ・洋式便座は、擬音装置を備えた温水洗浄装置とすること。 ・女性トイレには、パウダーコーナーを設けること。 ・便座クリーナー用ディスペンサーを設けること。 ・エアータオルを設けること。 ・ブース内にはバッグ等を置くための棚を設け、小便器間やブース扉にはフックを設けること。 ・イベント開催時における女子トイレの混雑に対応できるよう工夫すること。 	提案	2.6	C	VS	DR	提案		200						○	○		
	多目的トイレ	・誰もが利用しやすいトイレとして計画すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を考慮した位置に設けること。 ・手洗いは、自動水栓とすること。 ・洋式便座は、擬音装置を備えた温水洗浄装置とすること。 ・オストメイトに対応した設備を設けること。 ・シャワー金具はサーモスタット付きとすること。 ・ベビーベッドを設けること。 ・エアータオルを設けること。 ・その他高齢者、子ども連れ及び障がい者に配慮した設備を設けること。 	提案	2.6	C	VS	DR	提案		200						○	○		
	授乳室	・乳幼児を同伴する施設利用者用として計画すること。	・調乳用シンク、ベビーベット、給湯設備等の必要な設備を設けること。	提案	2.6	C	VS	DR	提案	○	200						○	○	○	
	自動販売機コーナー		・適宜設置	提案	提案	提案	提案	提案	提案		300						提案			
その他	搬入ヤードまたは搬出入口		<ul style="list-style-type: none"> ・出入口とは別途に通線溝（ケーブル、配管等用）を設けること。 ・外部には庇を設けるなど搬出入の際の雨避け等に配慮すること。 	提案	提案	C	防塵塗料	提案	提案		300									
	備蓄倉庫	・大規模災害が発生した場合を想定し、従業員及び施設利用者（帰宅困難者）の生命維持や生活に最低限必要な物資を備蓄すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・100人程度が3日間、本施設で滞在できるだけの物資を備蓄すること。 ・備蓄する物資及び必要量の算定は、「宮崎県備蓄基本指針（平成30年3月改定）」を参照すること。 	提案	提案	C	VS	GB-D	EP		200									
	その他諸室		<ul style="list-style-type: none"> ・給湯室を適宜計画すること。 ・職員更衣室や管理部門用倉庫等、必要と思われる諸室は適宜設けること。 	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	
	機械室、電気室、発電機室		・原則、屋内設置とする。	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	300	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	
	自由提案事業諸室			提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	提案	

<仕上げ凡例>

- ・床下地 C: コンクリートコテ押え、OA: OAフロアH=100
 - ・床仕上げ TC: カーペットタイル（ナイロン）、VS: 長尺塩ビシート、VT: ビニルタイル
 - ・天井仕上げ DR: 岩綿吸音板、GD-B: 化粧石膏ボード
 - ・壁仕上げ EP: エマルジョンペイント、EP-G: つや有エマルジョンペイント
- ※仕上げに関しては記載内容に対して同等以上とする。